

歯科 研修医募集!

和歌山県立医科大学附属病院
Wakayama Medical University Hospital
歯科口腔外科



和医大歯科口腔外科の診療内容・スタッフなどについてはこちらのQRコードをチェック!!

多職種連携

近年、高齢化が進み、歯科診療の需要も、口腔内のケアや管理に重点を置かれるようになってきました。それに伴い、日本全体で医科歯科連携拡充のながれが、ますます拡大傾向にあります。

和医大歯科口腔外科もその様な潮流をとらえ、多職種連携を進めています。

例えば他科入院した患者さんの術前術後の口腔ケアを通じて、周術期医療に貢献するなど、医学部附属病院ならではの医科歯科連携(多職種連携)に携わることができます。

研修で携わるもの

研修医と指導医とが距離の近い研修環境なので、習熟度に応じながら臨床に係ることができ、口腔ケア・歯科治療から口腔外科手術まで、ほぼ全ての歯科医療に携わることができます。

2、3年目には救急ER研修も

2～3年次には、和医大の麻酔科・救急科(ER)の研修ができます。麻酔科では医学部附属病院ならではの経験が、救急科(ER)では全国的にも珍しい1次～3次救急を受け入れており、他施設では得られない経験値の習得が可能です。

先輩研修医の 研修スケジュール 一例

1年目(初期研修)

4～3月: 歯科口腔外科研修
(外来・入院・手術)

2年目(後期研修)

4～6月: 麻酔科 研修	7～8月: 救急科 (ER) 研修	9～3月: 歯口外 研修
--------------------	-------------------------	--------------------

3年目(後期研修)

4～3月: 歯科口腔外科研修
(麻酔科・救急科研修で得た知識・技術を使い、臨床に生かすことにより更なるステップアップが可能!)

募集要項はこちらのQRコードをチェック!!

処遇

給与/月額300,000円

社会保険

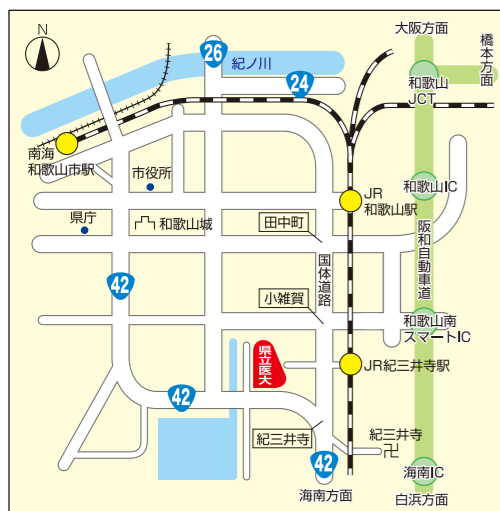
政府管掌健康保険、厚生年金、雇用保険に加入

その他

労災保険適用、白衣貸与など



Access



和歌山県立医科大学附属病院 卒後臨床研修センター

〒641-8509 和歌山市紀三井寺 811-1
TEL:073-441-0575 FAX:073-441-0576
E-mail:sotugo@wakayama-med.ac.jp
<http://www.wakayama-med.ac.jp/med/sotugo>

交通アクセス

●鉄道のご利用 JRきのくに線「紀三井寺駅」から徒歩約7分

新大阪	JR特急くろしお(約60分)	JRきのくに線 普通(約7分)	紀三井寺
天王寺	JR特急くろしお(約45分) JR阪和線 快速(約65分)		
関西国際空港	空港リムジンバス(約40分)		

バスのご利用

和歌山バス「医大病院」下車すぐ
和歌山バス・有田鉄道バス「医大病院前」から徒歩約3分
和歌山バス「医大病院東口」から徒歩約5分
※主要駅(JR和歌山駅・海南駅・南海和歌山市駅)から運行しています。

見学随時受付します



ホームページに、バーチャル病院見学を新設しました。

歯科医師臨床研修プログラム



- ◆単独型 歯科臨床研修プログラム
- ◆初期臨床研修歯科医師 定員:3名
- ◆2・3年目には麻酔科・救命救急(ER)研修あり
- ◆後期研修医も募集中!



和歌山県立医科大学附属病院 卒後臨床研修センター
Postgraduate Clinical Training Center, Wakayama Medical University Hospital.

皆様の生涯教育の第一歩につながるものと確信しています

歯科口腔外科学講座教授 松村 達志



当科は、和歌山県における中核医療施設として、多くの医療機関との連携のもと口腔内に発症する様々な疾患に対応しています。歯学部の口腔外科と異なり、口腔外科疾患に限定することなく、口腔疾患に対して抜歯、保存修復から顎義歯作成に至るまで広い範囲の診療を行っております。また、他科入院患者様に対しても口腔ケアを始めとする周術期等口腔機能管理を通じて、術後誤嚥性肺炎予防や抗がん剤中の口腔粘膜炎症化予防に努めています。

歯科医師臨床研修制度は、社会の求める優れた歯科医療人を育成することを目的に、平成18年度より導入されました。この臨床研修において大切なことは、患者様中心の全人的医療の理解と基本的な診察能力の習得して頂くことに加えて、この研修を皆様の生涯教育の第一歩にして頂くことです。医学部附属病院歯科口腔外科の特色を生かした当科の初期研修プログラムは、関連領域に関する基礎的知識、医療技術および歯科医師としての態度を自然に習得できるプログラムであり、研修中の医療従事者との多くの出会いが皆様の生涯教育の第一歩につながるものと確信しております。さらに2年目以降の研修では、和歌山県立医科大学独自システムとして麻酔科や救急部等をローテートするプログラムを有しており、これら研修を通じて深い知識と臨床能力を身に付け、大学院など研究分野に進んでいくことも可能です。

超高齢社会を迎えた日本において、歯科単独で完結する治療から医科各科目や様々な医療従事者との多職種連携の中での歯科治療へ大きくシフトしてきております。当科の研修プログラムを通じて、社会から強く求められている歯科医師に成長してくれることを期待しています。

当院での研修に興味のある方は、是非ともご連絡を頂き見学にお越しください。

1週間のスケジュール(例)



月
初診：問診・診療介助



火
午前：入院患者管理
午後：外来患者診療介助



水
手術：外来・入院



木
口腔ケア：
他科周術期患者等のケア

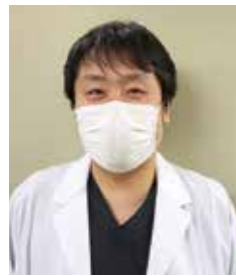


金
初診：問診・診療介助



先輩研修医の声

先輩研修医 A (愛知学院大学卒) の場合： ※5年目歯科医師



私が初期研修として当院を選んだ理由は、歯科医師として治療する際に自分には全身的な知識が余りにも無いと感じ、このまま臨床で患者に対して侵襲的な治療を行っても良いのかと疑問に思っていました。当科のカリキュラムでは口腔外科というだけでなく麻酔科・救急科と広く勉強できるため、和歌山県立医科大学での研修を希望しました。

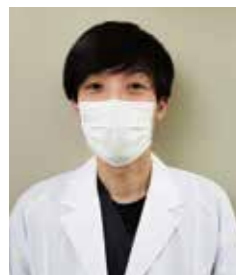
研修初めの頃は、口腔内吸引等の介助を含め、患者に接する処置全てに恐怖を感じていました。自分が何をすれば良いのかも分からなかったため、ひとまずば毎日処置の介助につき見学をしていました。そのうち自身で抜歯を行えるようになり、患者に対する恐怖を段々と克服していきました。

2年目(後期研修医)に進むと、麻酔科と救急科を回ることで、他科のもっと全身管理が厳密な患者を担当しているうちに、生命の危険なところの境界が分かるようになりました。すると、初期研修医の時に今まで私が恐れていたものは、医療行為全体のほんの小さな範囲だったのだと実感するようになりました。その後口腔外科へ戻った後は、初期研修の頃とは比べ物にならないほど全体を見渡されるようになりました。この頃から口腔外科がとても楽しくなり、元々は口腔外科を続けるつもりはありませんでしたが、もう少し続けていこうかなと思うようになりました。

3年目(後期研修医)に入り、抜歯や嚢胞等に比べて重篤な合併症の可能性がある、骨折や顎下腺摘出などの少し大きな手術をさせてもらうようになったことで、改めて治療の怖さを実感するようになりました。その後2年間、医員として口腔外科の診療に携わってきましたが、この初期研修・後期研修の経験があったからこそ、私は5年間も口腔外科を続けることが出来たのだと思います。

次年度からは一般歯科医院で働きますが、私の基礎には口腔外科があり、これを生かした一般歯科治療を行っていただけると良いと思っています。

先輩研修医 B (徳島大学卒) の場合：



私は学生実習を通して口腔外科に興味を持ちました。しかし保存、補綴等の歯科治療も行えなければ一人前の歯科医師にはなれないとも考えていました。

当院では埋伏智歯や嚢胞、良性腫瘍はもちろん、口腔がんや骨折、顎関節症、摂食嚥下、インプラント、神経損傷等、多くの症例を経験でき、周術期の管理を含め幅広い口腔外科の知識を学ぶことが可能です。診療科や病床数も豊富なためチーム医療の重要性を理解し、他職種との関わりを通して人間的にも成長できます。また長期入院患者や有病者に対する補綴物製作やう蝕治療、根管治療等も行っており、歯科治療に触れる機会もあります。

私自身1年目は上記多くの症例の見学、介助ができました。また埋伏智歯の抜歯に関しては上級医に介助についてもらいながら執刀しています。医局内の雰囲気も非常に良く、分からないことがあれば気軽に上級医に質問、相談できます。一緒に過ごす時間の多い同期とはご飯に行ったり、悩みを相談したり、非常に良い関係を構築できています。忙しいながらも充実した日々を過ごしています。来る2年目には麻酔科、救急での研修を控えており、今からとても楽しみです。

研修先を決めるにあたり、ぜひ一度見学に来て当院の雰囲気を感じていただければ幸いです。

研修終了後の進路

